

日本パラスポーツ看護学会 NEWSLETTER

第2号 (2025.10)

日本パラスポーツ看護学会 第7回学術集会を開催しました

「理学療法士としての学術集会長の挑戦と学び」

日本パラスポーツ看護学会 第7回学術集会は、2025年6月22日（日）に滋賀県立障害者福祉センターで開催されました。本学術集会を任せていただいたことは大きな挑戦であり、他（多）職種が連携しパラスポーツを支える看護職の意義（パラアスリートに安心感を与える存在）を深く実感する機会となりました。準備段階では、運営体制の整備や財政面の不安、細部の調整など課題も多くありましたが、実行委員や学生ボランティア、日本パラスポーツ看護学会関係者の献身的な協力により、一つひとつを乗り越えることができました。当日は多くの参加者を迎え、熱心な議論と笑顔に包まれ、競技大会ごとに求められる支援が異なるという看護職の役割と連携の可能性を共有できたことは大きな成果でした。ご協力いただいた皆様に心より感謝申し上げます。

第7回学術集会長 安田孝志

研修会を開催しました

2025年6月21日（土）に、滋賀県立障害者福祉センターにおいて、国立大学法人筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター教授の中島幸則先生を講師にお迎えして、「聴覚障がい者から学ぶコミュニケーション〜デフリンピック」をテーマとして、研修会を開催いたしました。計18名（内会員17名）の方にご参加いただきました。研修では聴覚障がい者の困りごとである「コミュニケーション」に焦点を当て、聴覚障がい者の、聞こえ方の違いやスポーツ活動中の困りごと、そしてコミュニケーションの「工夫」について、多くの実践を交えて学ぶことができました。研修会を通して、聴覚障がいは、見てわかる障がいではなく、その特性の理解と工夫を通して、聴覚障がい者の困りごとの解決が求められること、そしてこれはどの方にも共通することを実感した1日でした。

研修委員 永田亜希子



私の好きなものを、ジェスチャーで伝え・理解するワーク



学術集会シンポジウムの様子

第7回学術集会に参加しました

今回、学術集会に参加し、理学療法士、作業療法士、エンジニア、医師など他職種がパラスポーツを通して、具体的に「看護師に何を求めているのか」を学ぶことができました。エンジニアの講演の中で、看護師に「アクティビティを理解し、見てほしい」そして、「パラスポーツの参加の是非の判断をしてほしい」と話されていた。パラスポーツを行う人の日常生活を知り支える看護師の存在は大きい。だからこそ、他職種と情報を共有しながら連携・協働し、今どんな状態かを判断し、安全にスポーツが行えるようサポートすることが重要であることを知る機会となった。

名古屋学芸大学 鈴木孝

相談コーナー

日頃よりパラスポーツに参加されている方、サポートをされている方、身近に相談できなかったり、しづらかったりすることがありませんか。そのような疑問に学会員がお答えします。お気軽にご相談ください。*お返事にはお時間を頂く場合がございます。ご了承ください。

相談窓口

https://docs.google.com/forms/d/17_TJDSpNCydk6NMEDBPPYRJ_A478l0mbKmYoNVIK-yA/edit

学会ホームページ

<https://jparans.com/>



第8回学術集会ご案内

2026年6月28日（日）に愛知県の名古屋学芸大学名城前医療キャンパスにて開催予定です。

入会のご案内

入会に特別な条件はございません。どなたでもご入会いただけます。学会ホームページの「入会案内」から手続きが可能です。